

組合だより

発行所
岡山大学職員組合
〒700-8530 岡山市津島中 2-1-1
電話 086-252-1111 (代)
(内線) 7168
直通・FAX 086-252-4184

第28号

2月1日
2002年

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp



全大教単組代表者会議開催（成田に二名参加） 法人化と原則的・現実的対応 法人制度化における身分・待遇組合の役割 などについて特別報告

1/26-27

二本の特別報告（教員養成系大学・学部再編統合問題／法人制度下における身分・待遇・労組の役割）と執行部報告（「構造改革」・法人化など）「2002年春闘のとりくみ」の後、全体会と分散会とで質疑討論がなされました。執行部の基調は、「理念を高く掲げ、原則的かつ柔軟な運動を」（執行部・まとも）というものでした。それに対しては法人化反対を全面的にという声も出されました。以下は参加者からの報告です。

1月26日に成田市で開かれた全大教単組代表者会議に参加しました。会議は「教員養成系大学・学部及び付属校の再編・統合問題について」（大分大学・前田明氏）と「法人制度下における身分・勤務関係・労働組合の役割」（金沢大学・前田達男氏）の二本の特別報告と、全大教執行部からの春闘期の取り組みについての方針提起をめぐって、全体会と分散会で討議しました。

理念なき統合・再編

教員養成系大学の問題について、大分大学の前田氏は、「教員養成の理念のない再編・統合が、大学構造改革全体の突破口にされている」と強調されました。理念のない「はじめに統合・再編ありき」の動きは、岡山大学でも教員評価制度の導入

や学内組織の再編などをめぐって「他に先駆けてやることに意味がある」などという乱暴な議論がまかり通っています。大学とはいかにあるべきかを組合として積極的に大学内外に問いかけていかねばなりません。

職員組合の存在がストリートに問われる

法人化にともなう労働関係の問題について、金沢大学の前田氏は、現段階で想定される「公務員型」「非公務員型」の二つの法人化のタイプに分けて、提起されました。どちらの形になるにせよ、確実なことは労働組合としての職員組合の存在がストリートに問われてくる時代に入るといふことです。

法人化反対の原則を

分散会の中で、全大教執行部からの「反対の立場を買きつつも、制度政策要求など現実的な対応も」との提起に対して、教員養成系学部の参加者から、「この再編・統合の中で、われわれの学部はなくなってしまうかもしれない。その中でどんな現実的な対応がありうるのか」という強い批判の意見が出されました。真正面から受けとめるべき意見だと思えます。法人化反対の原則を最後まで貫く組合とその運動を強化し、拡大していくこと

によつてのみ、制度政策要求も真に力を発揮していくことができるのではないのでしょうか。

組合の力量強化こそ

いま緊急に求められていることは、やはり組合の力量の強化なのだ。その思いを改めて強くした会議でした。（医学部 矢田範夫）

座標軸

在任期間9カ月の間、真紀子前大臣がやった今回のNGOにかかわる処置は、初めて意味のある行動であったとさえいえるだろう。彼女が国民の期待に応えて、やっとまっとうなことをやった瞬間、彼女の首はもがれた。NGOの出席を拒むという外務当局の不当な処置、そうするようになると圧力をかけた背景などは、一切うやむやのままにである。世論の70%が、真紀子大臣の更迭を不当とするのも当然である。だが、この経過の中で、まぎれもない事実として、いくつかがことが浮かび上がってきた。一つは、NGOの出席の可否と、特定の政治勢力、派閥、議員が圧力をかけ、結果を左右してい

るということ。「政府を批判するグループに、自分たちが集めた税金を使わせるわけにはいかん」というのが、拒否の理由だと伝えられているが、税金の私物化意識には呆れるばかりだ。派閥の中では、こうした税金や政治の私物化は、おそらく、骨がらみのものだろう。そうした内々のことが明るみに出るとは、好ましいことではないので、この論戦は一刻も早く幕を引く必要があった。外務省当局や圧力者があさつり非を認めて終わりにするシナリオもあつたかもしれないが、それでは、派閥の省庁への睨みがひどく減殺される。派閥に従って大臣に逆らつても、派閥が骨を拾つてくれないとなれば、役人たちもそう唯々諾々と派閥の言いなりにならなくなる。それで、善政をしいた真紀子大臣の首をもういその威令を示した。小泉大臣は、重荷になつていたこともあつて、変人内閣の生みの親であり、彼の利き足ともいえるべき存在を、派閥の重圧に屈して惜しげもなく切り捨てた。この瞬間、改革の対象であつた政治の癒着や官僚の天下り裏金づくりなどの政治腐敗の一切が、不可侵の「聖域」として息を吹き返し始める。（い）

SANIO主催・東北大沼崎一郎先生

セク・ハラ問題講演会 開催

『性差別体制の暴力的構築』

SANIO（セクハラ・アカハラ・ネットワーキング・イン・オカダイ）は、職員組合の後援を得て、沼崎先生の講演会を開催した。例外的に多数の参加者があり、盛会であった。

1月23日 法文で

「過激派原理主義者」

沼崎さんは、まず自分は「性暴力問題に関する過激派原理主義者」であると規定して話し始められました。

SHというテロリズム

まずセクハラやアカハラの定義ですが、「権力関係を背景とした性的言動によるいやがらせ」というだけでなく、被害者の視点から「屈辱感を与えられ、尊厳を傷つけられる行為」であることをおさえるのが大切だと指摘されました。

男権社会の維持目的

次にセクハラやアカハラの問題ですが、一言でいえば、男権社会の差別構造を維持すること。男だけの同質社会を維持するため、地位、権力、体力差など



沼崎一郎氏・東北大文学部。東北大でのセク・ハラ支援の経験をもとに『キャンパス版セクシュアルハラスメント対応ガイド』を執筆。

を使つていじめたり、性関係を強要したりするのだということ。そうした行動の根底には、女性を一段低いものとする差別意識が存在するのだと指摘されました。

・ハラと根本的に異なる特質があり、「この人は逆らえない」という弱い相手を選んで攻撃を仕掛けるのだと指摘されました。だから、被害者以外が告発できる制度構築が重要で、相談・調査も外部の専門家に依頼するのが必須要件である、さもなければ対象とされた学生などには、絶対に救いはあり得ないと強調して、お話を締め括られました。

SANIOからのメッセージ

セクハラ被害者にとつての真の「被害」とは人間としての尊厳を踏みこじられたことなのだ、という点を改めて確認できた講演内容でした。SANIOは学内の教職員・学生から成る、セクハラ・アカハラ被害者支援のグループです。月例会も開いています。関心のある方はHPをのぞいてみてください。

(http://www.momo.it.oka.yama-u.ac.jp/~sasakura/sanio/)



ビデオ紹介
「法のはざまの女たち」公務臨職
Women's act 21編
2001年12月（40分）

「公務臨職」とは

「公務臨職」とは、国や地方自治体などの公務職場で働く非常勤職員（臨時職員）のことです。その数は50万人とも60万人とも言われますが、正確な実態は誰も把握していません。確実なことは、その圧倒的多数を女性が占めていること、そして正規職員とほとんど同様の仕事をしていながら労働条件は圧倒的に劣悪なままにおかれているということとです。

臨職差別撤廃のたたかいとともに

「法のはざまの女たち」公務臨職」というドキュメンタリービデオは、自らも旧国鉄の臨時雇用員として臨職差別撤廃のたたかいを取り組んでこられた和田弘子さんを中心とするWomen's Act 21によって制作されました。私たちが岡大医学部単組や全医労、自治労など全国の88の団体と94人の個人が制作に賛同・協力しています。ビデオの中では、本来法を守るべき機関である国や地方自治体において公然とまかりとおっている非常勤職員差別という脱法行為の実態、そしてこうした「使い捨ての部品」状態におかれている非常勤職員自身が人間としての尊厳を掲げてたたかいに立ち上がっている姿をレポートしています。

諦めず声を上げる

「私たちは何もとんでもないことを要求しているのではない。同じ時間、同じ仕事をしているのだから、同じ待遇を保障すべきだ」という当たり前の

ささやかな要求をしているだけだ」という訴え、そしてこの声が行政当局を動かして嘱託職員への退職金制度化をかちとつた兵庫県宝塚市の労使をあげた取り組みなど、あきらめずに声を上げつづけることの重要性が、ひしひしと伝わってきました。

格差は拡大傾向

国立大学の職場においても、多くの非常勤職員が教育・研究・医療を支えています。ところが、給与改定（ベラスアップ）見送りの代償として3月に支給される、暫定的一時金について、「非常勤職員を除く」と人事院勧告に明記されているなど、非常勤職員との間の労働条件格差は是正されるどころか、いっそう拡大しているように感じています。私たち非常勤職員の「人間らしく生き生きと誇りをもって働きたい」という心の底からの声を、教職員・非常勤職員の方々に届けてほしいと思います。

貸し出しは医単組まで

このビデオを一人でも多くの皆さんにお勧めします。（ビデオ貸し出しは医学部単組まで）

散歩道

ため池の護岸工事が続いている。土手が行止めになった。が、道端の畑のあぜ道を通れば、通り抜けられないわけではない。

冬の下に氷晶の結晶のように発達した霜柱が見えたものだ。

柔らかき土を住みかの霜柱

いま、霜柱を見かけることはない。ひび、あかぎれ、霜焼け。かじかんで伸びない指。あの骨を刺すような厳しい寒気はどこへ行ってしまったのだろうか。この大きな自然環境の変化は、わたしたちにとつて、果たしてなにを意味しているのだろうか。（k）